

アレルギー性鼻炎と治療

唐木将行（香川大学耳鼻咽喉科頭頸部外科）

近年花粉症をはじめとするアレルギー性鼻炎は増加の一途をたどっている。疾患の発症原因として遺伝的要因と環境的要因が関与するとされているが完全には解明されていない。

アレルギー性鼻炎は発症原因や時期から通年性（ダニやホコリアレルギー）と季節性（花粉症）に大別される。若年層で花粉症の有病率が増加しているとの報告が多くなされているが、実際の有病率はどの程度であるのか？ また、我々が香川大学医学部学生に行っている調査では、最近の学生は10年前の学生と比較して、スギやホコリに対する感差率・発症率とも明らかに増加していたがどの程度であるのかについて報告する。

アレルギー性鼻炎に対する治療は①抗原回避、②薬物治療、③免疫療法、④手術療法、が原則となる。講演では2005年度版鼻アレルギー診療ガイドラインをふまえ、実際の治療の進め方について解説を行う。

最後に、訴えが少なくアレルギー性鼻炎が疑われにくい小児例について症例を提示し解説する。